

(3) 高機能自閉スペクトラム症のある成人のアイデンティティ確立の過程

—当事者の語りから—

医療福祉学研究科医療福祉学専攻修士課程 ○林 俊美
医療福祉学研究科医療福祉学専攻 諏訪 利明
医療福祉学研究科医療福祉学専攻 小田桐早苗
医療福祉学研究科医療福祉学専攻 熊谷 忠和

【目的】

自閉スペクトラム症 (Autism Spectrum Disorders: 以下 ASD とする) と診断された一人の成人のアイデンティティの確立の過程を本人の語りから明らかにする。

【方法】

対象者は、児童精神科医から本人の参加の意思を確認し、紹介を受けた成人男性 T、診断名は、ASD である。未診断だが相貌失認、注意欠如多動症 (ADHD) を自覚している。

対象者に対して、インタビューガイドに基づく非構造化インタビュー (90分) を実施した。インタビュー内容を逐語起こししたものを対象者に見せて読んでもらい、フォローアップインタビューを2回 (90分, 10分) 実施した。ここから得られた内容をライフストーリー分析のルールに従って、かきおこし (transcription) をした。かきおこしを年代ごとに文節化し、本人が何度も繰り返したり、長いエピソードの語りだったりしたとき、その中ででてきた言葉を小見出しとしてつけた。

【結果】

小見出しは、①土管の幼稚園 ②いじめ 大きなパニック ③障害告知 ④後追い ⑤ふわふわ ⑥ふれあい ⑦白鳥の湖 ⑧感覚過敏 ⑨コロナ ⑩一人でやってみる ⑪必要なもの ⑫友人たちの12に分けられた。

【考察】

1. ストーリーの流れ マスターナラティブと取り組み、それに対抗するプロセス
2. 心理的プロセス
3. プロセスを促した要因 母, 先生, 文学
4. 広い意味でプロセスを促した要因としての社会的コンテキスト

【まとめ】

まだ、分析の中途ではあるが、神経発達症 (発達障害) の中でも、特に ASD は社会によって生じる不利益の部分が大きい。その中で学校の生徒としてのアイデンティティ、障害を持つアイデンティティではなく、居場所、よりどこをどこに置くかにより安心して勇気をもらえ、この自分でいくという個人アイデンティティを確立しようとする語りだった。